

武蔵野市障害者計画・第8期障害福祉計画専門部会（第4回）
令和8年度武蔵野市地域自立支援協議会（第4回親会） 会議録

■日 時 令和8年9月7日（月）午後6時30分～8時30分

■場 所 市役所8階 811会議室

- 1 開会
- 2 配布資料確認
- 3 議事

障害者計画・第8期障害福祉計画専門部会

(1) 武蔵野市障害者計画・第8期障害福祉計画・第4期障害児福祉計画中間まとめ（案）

【事務局】

資料1について説明。

欠席委員からの意見として、施策7「支援につながりにくい人への支援の充実」は事業名と記載内容が一致していないのではないかと、「支援につながりにくい人」と「支援につながっていない人」は同義ではないため表記を整理すべきである、施策23「依存症対策の理解促進」は「地域で健康に暮らし続けるための支援」よりも「保健・医療・福祉・介護の連携強化」に位置付ける方が適切ではないかと、との意見をいただいた。

【事務局】

施策7は、事業名と内容の関係や表記を確認し、適切な名称又は配置を検討する。依存症対策についても、より適切な施策への移動を検討する。

【会長】

施策7は、包括的な相談支援や役割強化に関する他の記載とも重なるため、事務局で整理してほしい。依存症対策についても、施策間の重なりを含めて検討してほしい。

【委員】

現場職員の意見が計画に反映されていると感じた。計画の推進を担う若手職員が、市の計画と法人の計画・日々の業務とのつながりを意識できる取組も重要である。重点5の人材確保については、確保だけでなく「定着」も大きな課題であるため、見出し等に明記してほしい。

【委員】

新規採用者への支援だけでなく、職員の定着に取り組む法人への助成等も検討してほしい。福祉人材の賃金水準が低い中、定着を支える仕組みが必要である。

【会長】

人材の定着の重要性と、定着を支える仕組みについて、計画に盛り込めないか検討してほしい。

【委員】

施策21、24、43、48などはライフステージに関わる類似した項目に見えるが、詳細を読むと目指す内容は異なるため、重複していてもよいと思う。一方、類似機能を持つ会議体や仕組みが整理されないまま同様の取組が増えないよう、計画期間中に取組を振り返り、成果や役割分担を整理する機会が必要である。

【会長】

各項目の違いが伝わるよう、見せ方を工夫する必要がある。基本的視点は4項目である一方、重点4「ライフステージを通じた切れ目のない支援の推進」は重要なテーマであり、基本的視点との対応関係が分かりにくい。重点項目と基本的視点を合わせる考え方もあるのではないかと。

【事務局】

基本的視点は、これまでの骨格を大きく変えず、障害施策を大きな視野で捉える観点から

4項目としている。重点的取組とは必ずしも一対一で対応させていない。

【会長】

基本的視点2の地域生活基盤の整備と、ライフステージに応じた支援は重なる部分があるが、記載上は離れているため、関係性が伝わる工夫を検討してほしい。

【委員】

前計画から引き継ぐ課題にある「住まいの総合相談窓口」と「あんしん住まい推進協議会」の関係を確認したい。また、「放課後等デイサービス『パレット』の対象・支援内容の正確な周知も課題」とあるが、その課題を確認したい。情報保証は、手話・要約筆記だけでなく、テキストデータや字幕など、多様な手段で保証していくことの必要性を記載してほしい。

【事務局】

10月1日に住まいの総合相談窓口を開設し、従来の安心住まい制度を統合する。専門職が希望条件を整理し、不動産事業者が必要とする情報を提示するとともに、必要に応じて同行するなど、住まい探しを手厚く支援していく。情報保障については、意見を踏まえて記載を見直す。

【事務局】

児童発達支援・放課後等デイサービスには、主として重症心身障害児を対象とする事業と、それ以外の事業があり、人員・設備基準や報酬が異なる。「パレット」は重症心身障害児対応の基準を有しておらず、対応できる範囲を十分に説明できていないため、民間事業所の状況も含め、対象・支援内容を正確に周知する必要があると感じている。

【委員】

成人期への移行を支える切れ目のない支援に記載の内容は、実現すれば心強いと思う。学校から福祉への引継ぎが十分でない場合や、通常の移行過程から外れて支援が途切れる場合もあるため、学校と福祉機関の連携、地域で支える視点、支援の見える化を盛り込んでほしい。

【会長】

「教育」という広い表現だけでなく、学校と福祉機関がつながる枠組みを明示することや、学校を地域で支える視点を盛り込めないか検討してほしい。

【委員】

転入者への支援を組み込んでいただきたい。転入時は、利用できるサービスや地域の特性を知り、地域との接点をつくる重要な機会である。町内会がない武蔵野市では、転入者が地域の情報やつながりを得にくい場合があるため、転入者支援の視点を「地域の多様な主体が支える生活基盤の形成」等に盛り込んでどうか。

【委員】

地域社協等が独自に地域案内を作成し、転入者に配布している地域もあるが、市全体を網羅できていない。転入手続の際に地域情報を案内するなど、市と地域が連携する方法を検討できるとよい。

【会長】

年齢に沿った縦のつながりだけでなく、転入時を含め、地域の人とつながることが支援につながる土台となる。重点2に地域とのつながりの視点を盛り込めないか検討してほしい。

【委員】

武蔵野市では、町内会に代わり、コミュニティセンターや地域社協等が地域のつながりをつくってきた。この強みをさらに生かす必要がある。また、差別は無理解、無関心、無意識からも生じる。差別解消は障害のある人だけでなく全市民の利益につながる課題であり、市民全体への継続的な働きかけが必要である。

第8期計画は、重点的取組と施策を一体的に掲載したことで、従来より関係が分かりやすくなった。一方、構成変更により従来の内容が意図せず後退することがないように確認してほしい。

【事務局】

重点的取組をすべて説明した後に施策を掲載する従来の構成から、重点としている内容と、それを受けた施策を近くに配置する構成に変更し、両者を見比べやすくした。

【委員】

差別解消と虐待防止は別の概念であるため、一括りにせず整理した方がよいのではないかと。また、重点的取組の各項目と、その後の施策の小見出しが一致しておらず、対応関係が分かりにくい。各項目の直後に関連施策を置く、又は見出しをそろえるなどの工夫が必要である。成年後見制度は法改正が予定されているため、名称や制度内容の変更も踏まえて記載を確認してほしい。

【会長】

成年後見制度の改正は大きな変更であり、適切な運用に加えて周知にも踏み込んでほしい。重点項目と施策の対応関係についても、より分かりやすい構成を検討してほしい。

【事務局】

各重点項目の直後に関連施策を置く構成が最も分かりやすいと考えるが、複数の視点にまたがる施策もある。施策区分を残すか、表を一つにまとめるかも含め、より見やすい構成を持ち帰って検討する。

【委員】

前計画から引き継ぐ5つの課題に、新たな課題がどのように加わっているのか確認したい。施策47「家族の生活を支える支援の充実」は子どもも対象に含むのか。また、ピアサポーターは育成だけでなく、活動の場の拡充も必要であると考えます。

【事務局】

新たな課題がないわけではなく、新たな課題も含めて重点的取組と施策に記載している。施策47は子どもも対象として意識している。ピアサポーターについては、精神科長期入院者退院動機付け支援事業で既に活動しており、今後も活躍できる場面と組み合わせながら検討する。

【委員】

住まいの総合相談窓口への一本化は大きな変更であるため、地域に分かりやすく周知してほしい。人材確保では、民間の人材紹介会社に頼らざるを得ず、成功報酬による法人の財政負担が大きいことが課題である。人材の確保・専門性向上に関する取組に期待している。

【委員】

意思を言葉で表すことが難しい人についても、様子や状況から意思をくみ取る支援が必要であるため、基本的視点の「自らの選択に基づく生活」に意思決定支援の考え方を盛り込んでほしい。また、情報保障には、知的障害のある人に向けた分かりやすい日本語、イラスト、絵等も含めてほしい。

【委員】

地域移行に関する記載は、地域移行部会の取組と重なるため、成果につなげていきたい。相談は予約や登録を要せず気軽に利用できる窓口を周知すること、居場所は土日祝日や遅い時間にも利用できる場を検討することが必要ではないか。

【委員】

計画の対象を、住民票のある市民に限るのか、通勤・通学等で市内にいる人も含むのか確認したい。災害時には市外から来ている人や、市内居住でも住民票がない人も被災する。就労や地域資源の利用も含め、武蔵野市という地域で障害のある人が暮らしやすく、活動しやすくなる視点が必要である。

【事務局】

本計画は住民票のある人のみを対象とするものではない。通勤・通学者などの関係市民や昼間市民も、地域を暮らしやすくする各種計画の視野に入っている。ただし、個別サービスの対象は制度により異なり、住民票を基準とするもの、実際の居住地を基準とするものなどがある。避難所は住所地以外も利用できるが、個別避難計画は居住自治体が作成することが基本である。

【委員】

地域の生活基盤を支える主体として、当事者・家族、地域住民、関係機関、行政等を明記すると、住民票のない関係市民も含めた地域全体の視点が伝わりやすい。情報保障は、紙、テキストデータ、QRコード等、多様な人に情報が確実に届く仕組みとして捉える必要がある。手話を言語として認めることに加え、知的障害のある人、外国人、盲ろう者等も含め、必要な情報が伝わる仕組みを整えてほしい。

また、ライフステージの切れ目は年齢だけでなく、中途障害や進行性障害、重度障害のある人の就労にも生じる。介護を利用しながら働くことを含め、多様な働き方の選択肢を検討してほしい。障害のある人を支援の受け手だけでなく、地域活動の担い手、地域の財産として捉える視点も必要である。

【委員】

障害者差別解消について、心のバリアフリーハンドブックもあるが、その取り組みはどのような内容で行われているか検証が必要。無理解・無関心・無意識による偏見や差別をどのように解消につなげるのかが分かる記載にしてほしい。市職員の障害理解と差別的な対応が行われていないか等の対応力の向上も重要である。

【事務局】

心のバリアフリーハンドブックは令和5年に作成したが、限られた講座での周知にとどまっていた。このため、社会福祉協議会と連携し、ボランティア講座等でも配布するなど活用を広げている。今後も継続するとともに、市職員に対する取組も検討する。

【委員】

コラムでは、地域社協や障害者部会等が障害のある人との交流機会を設けていることや、地域の方と食事等を通じて交流している事例など、インフォーマルな社会資源を活用した地域生活の様子を紹介してはどうか。

【会長】

地域の多様な取組や支援主体を紹介することで、計画の具体的なイメージが伝わる。委員からも、紹介に適した事例を引き続き提案してほしい。

【事務局】

本日の意見及び後日提出される追加意見を踏まえ、中間まとめ案を修正する。11月4日の健康福祉施策推進審議会、11月13日の厚生委員会への報告後、パブリックコメントを実施する。空欄となっている第4章の見込量等及び資料編は、パブリックコメント前に委員の皆さんへ送付する。12月の市民意見交換会等の意見も踏まえて修正し、2月1日の第5回専門部会で確認した後、市長答申を経て4月1日から新計画を開始する予定である。

ここからは自立支援協議会の議事に移るため、会長に進行をお願いする。

地域自立支援協議会

(1) 「地域体制強化共同支援加算」における報告の場の位置付けについて

【事務局】

資料2について説明。

【会長】

地域課題に応じて、住まい部会等の関係する専門部会へ報告するという理解でよい。

【事務局】

そのとおりである。

【会長】

異議がないため、事務局案のとおりとする。

(2) 武蔵野市地域自立支援協議会専門部会活動状況の報告

【会長】

各専門部会から、部会長に代表して現在の部会の様子や活動状況について報告をお願いし

たい。

【委員】(相談支援ネットワーク部会)

今年度は「居場所」をテーマに、認識の共有と深掘りを進めている。第2回部会では部会員が居場所のイメージを出し合い、現在は当事者へのアンケートを実施している。第3回はアンケート結果と居場所のイメージを集約し、他自治体の情報も収集する。第5回・第6回では、武蔵野市の地域共生社会につながる提案としてまとめた。

【委員】(地域移行部会)

8月26日に第3回部会を開催した。精神科病院の長期入院者へのニーズ調査は、対象者5名のうち3名にヒアリングを実施した。聞き方等の反省点を修正し、残る対象者への調査を10月2日と7日に実施する予定である。また、今年度から受託した精神科長期入院者退院動機付け支援事業について説明した。次回は9月30日に開催する。

【委員】(住まい部会)

障害のある人の一人暮らしを支援するリーフレット・パンフレットの作成を進めている。8月19日の定例会では、事例、Q&A、お役立ち情報、相談先等の担当グループに分かれて制作作業を行い、全体の形が見えてきた。次回も引き続き作成作業を行う。

【委員】(当事者部会)

交流・つどい部会と連携したコミュニティセンターでの意見交換、相談支援ネットワーク部会による居場所に関するヒアリング、住まい部会のパンフレットに掲載する体験談のインタビュー方法の検討等を行った。また、まちづくり推進課から、吉祥寺エリアの駐車場における障害者用駐車スペースについてヒアリング依頼があり、9月の部会で扱う予定である。「あったかまつり」では模擬投票と座談会を計画している。

【委員】(交流・つどい部会)

8月8日にコミュニティセンターで、地域のコミュニティ協議会及び当事者部会との話し合いを実施した。ハード面だけでなく、これまでの経験や心理的な面についても活発な意見交換が行われた。次回は民生委員との交流・意見交換会を企画している。

【会長】

各部会で活発に活動していることが分かった。計画策定だけでなく、各部会の取組を協議会全体で共有しながら進めてほしい。

4 報告事項

(1) 東京都自立支援協議会交流会の報告について

【事務局】

資料3について説明。

【会長】

当日参加された方々から一言ずつ感想をいただきたい。

【委員】

武蔵野市は、当事者を含む多くの参加者でグループワークができた。支援する側・される側という分け方ではなく、当事者と支援者がともに参加する点が武蔵野市らしく、よかった。

【委員】

他自治体が当事者参加に悩んでいる中、武蔵野市では当事者が自然に参加していることが強みだと感じた。顔の見える関係で話し合える交流の場は重要である。知的障害のある人がファシリテーターの補助を務め、分かりやすく進行していた点も印象的であった。

【委員】

当事者である登壇者の話の中で、「自分から動き、熱意を持って伝えなければ届かない」という発言が印象に残った。熱意を持って伝えられなかったとしても、相談できる関係が必要であると思う。登壇者の方が、「この人だったら相談できる」と感じた相手が、以前から子どものことでつながっていた子育て支援センター職員だったという事例から、障害福祉だけでなく子育て等の他の分野とのつながりも大切だと感じた。

【会長】

当事者が自然に参加していることは武蔵野市の特徴であり、大切にしていきたい。交流会資料も参考にしてほしい。

5 その他

(1) 次回日程等

【事務局】

追加の意見・質問は、会議後にメールで回答フォームを送付するため、9月11日を目途に入力してほしい。次回は令和9年2月1日（月）午後6時30分から、市役所8階811会議室で開催する。

以上で終了とする。

6 閉会